

環境マネジメント

エスペックでは、環境への取り組みを企業経営の最重要課題の一つと位置づけ、継続的に環境マネジメントに取り組んでいます。

環境経営の基本方針

当社は、環境宣言「エスペックは、かけがえないこの地球を決して傷つけない。単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである」に基づき、真摯に

環境保護・保全・改善に取り組んでいます。

1996年4月に、全社環境基本方針を定め、以降世の中の動向、ステークホルダーのみなさまからの要請、自社の活動実績を踏まえ、改訂を重ねています。

エスペック環境基本方針

環境宣言

エスペックは、かけがえないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

基本理念

エスペックは、環境保護・保全・改善が企業経営の最重要課題のひとつであることを認識します。
よって、エスペックは、以下の方針に基づき、地球温暖化の防止、資源循環の促進、生物多様性の保全ならびに環境への汚染防止に努めるとともに、環境マネジメント活動、製品・サービスの継続的改善を図ります。
そして、環境試験装置、電子デバイス装置およびエナジーデバイス装置などの製造、販売、メンテナンス、及び受託試験の提供で、低炭素技術などを開発されているお客さまに貢献する企業となることを目指します。

基本方針

1. 地球温暖化防止への貢献を目指し、技術開発、製品及びサービスの開発を行い、お客さまに提供します。
2. 地域(都市・里地・里山・奥山)の生態系保全活動への参加・協働を通して、生物多様性保全への貢献を目指します。
3. 事業活動・製品・サービスの有害物質の管理やグリーン調達によって、環境への汚染防止に努めます。
4. 企業活動にて発生する排出物と製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)に努めることによって、循環型社会の実現に寄与します。
5. 設計・製造・販売・メンテナンス・事務活動における環境負荷低減によって、地球環境保全に貢献します。
6. 環境関連法規制ならびに組織が同意したその他の要求事項などの遵守はもとより、必要に応じて自主基準を設定し、環境リスクマネジメントに取り組めます。

これらを実現するために、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し活動するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直します。

2014年4月1日

代表取締役社長

石田 雅昭

●この環境方針は組織で働く全ての人に周知するとともに、社外に公表します

環境マネジメント推進体制

第5次環境中期計画の最終年度として、目標達成に向け各種施策を推進しました。

ISO14001の認証取得

当社は、1996年の「環境管理」導入後、事業所単位での環境マネジメント活動と、ISO14001認証取得を積み重ね、継続して環境ガバナンスの強化を図ってきました。今後も、エスベックグループ全体で、環境マネジメント活動を推進していきます。



■ 環境マネジメントシステムの審査登録状況

社 名	環境マネジメントシステム	取得年月日
エスベック株式会社	ISO14001	1996年12月26日
エスベックテクノ株式会社 (現・エスベックテストシステム株式会社)	ISO14001	2003年3月12日
エスベック九州株式会社	ISO14001	2004年8月4日
上海愛斯佩克環境設備有限公司	ISO14001	2004年9月8日
エスベックミック株式会社	エコアクション21	2005年4月27日

全社環境管理委員会

環境マネジメント活動を推進する母体として、1996年4月から全社環境管理委員会を設置しています。委員長には社長、副委員長には環境管理担当役員が就任し、全社共通の目標管理、各種案件の審議などを行っています。ここでの決定が、それぞれの会社、事業所、事業部に展開され、活動が推進されます。2011年度から2013年度までの第5次環境中期計画では、環境目標の中でも特に、CO₂排出量削減に重点をおいた環境マネジメント活動を行いました。

環境啓発活動

環境関連行事の開催を通じて、社員の環境啓発に取り組んでいます。

エスベック環境ウィーク

環境保全・改善に対する意識の高揚を目的として、6月5日の「世界環境デー」を含む週を「エスベック環境ウィーク」に設定しています。全社員、取引先さま、ならびにそのご家族などを対象に、環境啓発に関わるさまざまな取り組みを行っています。

毎年、全社環境大会の開催および「環境功労賞」「環境ポスター・絵はがきコンテスト」などの各種表彰や地域清掃活動などを実施しています。

全社環境大会

環境啓発の一環として「エスベック環境ウィーク」に、全社環境大会を開催しています。社員および主要な取引先さま約140名が参加し、社長よりエスベックの製品・サービスを機軸とした環境経営についての発表と、外部講師による講演を行いました。



全社環境大会

環境社会検定試験(eco検定)の取得奨励

幅広い知識をもって環境問題に取り組む人づくりを目的としてeco検定の取得を奨励しています。2013年度で、管理職全員、正社員の約70%が合格しています。

環境マネジメント

2013年度 報告

第5次環境中期計画で掲げた目標は、概ね達成しました。特に「地球温暖化防止」への貢献として掲げた、製品・受託試験・プロセスでのCO₂排出量削減は、目標を大幅に達成する7,300t超となりました。また、研究・教育への支援を中

心とした生物多様性保全への取り組みとして、公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」が累積162団体に対し総額8,472万円の助成を行うことができました。みどりの学校では、受講生が累積3,812名に達しました。

2013年度および第5次環境中期計画 目的・目標と実績

	目的・目標テーマ	第5次環境中期計画 環境目的 (2011～2013年度)	2013年度		
			環境目標	実績	
1	地球温暖化防止	●製品・受託試験・プロセス (生産部門・事務部門) でCO ₂ 排出量を削減します 削減 6,800t以上	●CO ₂ 排出量削減 6,800t以上		7,363t
			●省エネ製品・省エネ改造サービスの提供で、お客さま先でのCO ₂ 排出量を5,740t以上削減します		6,214t
			製品・改造	●環境配慮製品として新製品1機種の発売を完了します	1機種発売
				●既にお客さまにて使用されている高温器を省エネに改造するサービスを開始します	サービス開始
			●受託試験所の省エネを進め、CO ₂ 排出量を330t以上削減します		361t
			●生産部門・事務部門にてCO ₂ 排出量を730t以上削減します		788t
2	生物多様性保全	●公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 累積助成件数 160件以上			累計162件
		●福知山市・家庭分野でのみどりのカーテン実施率10%以上			8.3% (2,497世帯)
3	汚染防止	●欧州向け製品をRoHS規制対応品とします	●欧州向け製品のうち、2機種についてRoHS対応品とします		2機種対応
		●グリーン調達基準に基づく部品調達率90%以上を維持します			94%
4	循環型社会の実現に寄与	●国内のすべての事業所においてゼロエミッションを達成します			全事業所 ゼロエミッション
		●製品リサイクルサービスを充実し、回収した製品の有効利用を図ります 回収170台以上			132台
5	環境負荷低減	●設計・事務部門で、事務用紙使用量を削減します 削減20万枚以上			20.5万枚

第6次環境中期計画および2014年度 環境目標

2014年度から2016年度までの3カ年を第6次環境中期計画として、環境目的・環境目標を策定しました。第5次環境中期計画と同様、「地球温暖化防止」に貢献するためにCO₂排出量削減を最重要目的と位置づけていますが、「グリーンで経済的なエネルギーの供給・流通・消費社会の実現」に貢献するた

め、「エナジーデバイス(二次電池・パワー半導体・太陽電池)を開発されているお客さまへの製品・サービスの提供」を新たに環境目的として設定しました。また、「生物多様性保全」については、従来の研究・教育への支援を中心とした取り組みから一歩進め、「地域の協働保全活動への貢献」に変更しました。

第6次環境中期計画および2014年度 目的・目標

	目的・目標テーマ	第6次環境中期計画 環境目的(2014~2016年度)	2014年度
			環境目標
1	地球温暖化防止	●製品・受託試験・プロセス(生産部門・事務部門)でCO₂排出量を削減します 削減 10,000t以上	●CO ₂ 排出量削減 8,000t以上
			●国内で生産している省エネ製品等の提供で、お客さま先でのCO ₂ 排出量を6,000t以上削減します
			●中国で生産している省エネ製品等の提供で、お客さま先でのCO ₂ 排出量を960t以上削減します
			●受託試験所にてCO ₂ 排出量削減330tの状態を維持します
		●グリーンで経済的なエネルギーの供給・流通・消費社会の実現に貢献する製品・サービスを提供します エナジーデバイスを開発されているお客さまへ製品・サービスを提供します 2010年度比1.3倍以上	●エナジーデバイスを開発されているお客さまへ製品・サービスを提供します 2010年度比1.2倍(売上24億円)以上
2	生物多様性保全	●地域協働活動に参画し貢献します ①みどりのカーテン普及 実施世帯数1万世帯以上 ②森づくり活動 累積参加人数 800名以上	●地域協働活動への貢献します ①みどりのカーテン普及 実施世帯数5,400世帯 ②森づくり活動 累積参加人数 600名以上
		●公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 累積助成件数 190件以上	●公益信託「エスベック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 累積助成件数 170件以上
3	汚染防止	●欧州向け製品をRoHS規制対応品とします	●欧州向け製品のうち、8機種についてRoHS対応品とします
		●グリーン調達基準に基づく部品調達率90%以上を維持します	
4	循環型社会の実現に寄与	●国内のすべての事業所においてゼロエミッションを維持します	●製品リサイクルサービスを充実し、回収した製品の有効利用を図ります 回収170台以上
		●製品リサイクルサービスを充実し、回収した製品の有効利用を図ります 回収200台以上	
5	環境負荷低減	●スコープ3*における5つのカテゴリーまで温室効果ガス排出量の管理範囲を拡大し、改善課題を明確にします	●スコープ3における3つのカテゴリーまで温室効果ガス排出量の管理範囲を拡大し、改善課題を明確にします

※ サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量

環境に配慮した製品

エスペックは、「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定し、製品の省エネはもとより、リサイクルや化学物質の適正使用など総合的な視点から環境配慮型製品の開発・提供を進めています。

環境配慮型製品創出への取り組み

環境に配慮した製品の提供を通じて、お客さま先での環境負荷低減に努めています。

製品開発の基本的な考え方

当社では、早くから地球環境保全に関心を持ち、製品の運転時の消費電力量低減や化学物質の適正使用、製品廃棄時における環境負荷低減などの問題に取り組んできました。その製品開発の姿勢は現在へと受け継がれ、当社の主力製品「環境試験器」が抱えている環境面での課題を明確にし、これらを解決する「環境配慮型製品」の開発を継続的に行っています。その基本的な指針となるのが「環境配慮開発設計ガイドライン」です。制定以来、時代とともに改訂を重ね安全・品質・価格・環境・納期のすべてに満足する製品を開発することを基本にしています。これからも地球環境に配慮した製品の創出を通じて、社会やお客さまに貢献することを目標に活動していきます。

リサイクルへの取り組み

当社製品は、金属材料と樹脂材料で構成しており、廃棄の際の分別が困難で、廃棄物処分場に負担をかけています。開発段階から製品のリサイクルを考え、

- 解体・分別しやすい構造
- 樹脂部分の材質マーキングなどを新製品・モデルチェンジ品に順次適用しています。

冷媒フロンへの取り組み

当社では、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。2000年には、当社製品の冷凍回路のHFCフロンへの転換を完了させています。

化学物質の適正使用

危険有害化学物質排除に向けて、自主的にRoHS指令対応部品への代替化を進めています。

危険有害化学物質排除に向けて

製品設計にあたり使用禁止物質を指定し、有害物質の使用を削減してきました。

EU-RoHS指令における6品目の有害物質については、2014年3月末現在、当社製品は規制の対象ではありませんが、2013年から順次自主的にEU-RoHS対応製品の提供を開始しました。

PRTR法(化学物質排出移動量届出制度)への対応

当社では、数百種類の危険有害化学物質を使用しています(当社基準に基づく選定)。これらに対し、SDS※の配備、使用・保管に関する手順書の整備、より安全性の高い物質への置き換えの促進など適正な管理を実施しています。化学物質の移動量管理については、自主管理基準で1kg以上を集計単位として管理しています。2013年度、報告義務のある1t以上の取扱量となる物質はありませんでした。

※化学物質等安全データシート(Safety Data Sheet)。化学物質の安全な使用・取扱いをするために必要な情報を記載した資料。

アスベスト対応

当社では、過去の製品において断熱材やパッキンの一部にアスベスト含有部材を使用していた時期があります。2006年6月末までにすべての製品においてアスベスト含有部材の使用を取り止めています。

従来から当社製品をご利用いただいているお客さまに対しては、当社製品のアスベストに関する情報を、ホームページや個別対応にて積極的に情報公開しています。

環境配慮型製品

製品の環境性能をお伝えするため、製品への環境ラベル表示をしています。

グリーンプロダクトラベル

2009年4月、環境配慮型製品の開発促進、製品に関する環境情報の積極的な公開を目指し、当社が定める環境配慮認定基準を満たした製品を「グリーンプロダクト」と認定し、環境ラベルを貼付する「グリーンプロダクトラベル」制度を開始しました。

「グリーンプロダクトラベル」は、国際標準化機構 (ISO) で定められた環境ラベルのうち、自己宣言型 (タイプⅡ) の環境ラベル (ISO/JISQ14021) に相当するものです。



グリーンプロダクト認定製品

●真空オーブン

扉ロックや函体構造変更、断熱材の改善で槽内の密閉性と断熱性を向上、ポンプの稼働時間を短縮することで消費電力を大幅に低減しました。



省エネ率
最大 **40%**

●安定性試験器

安定性試験専用器として汎用器 (従来品) の空調能力を絞り込み、消費電力を大幅に低減しました。



省エネ率
最大 **61%**

●恒温 (恒湿) 器 プラチナス J シリーズ

新冷凍システム (特許出願中) を採用。新開発の Smart R&D (冷凍&除湿) システムを搭載し、省エネルギーと高信頼性を実現、第33回優秀省エネルギー機器「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。



優秀省エネルギー機器
日本機械工業連合会会長賞
平成24年度 日本機械工業連合会

省エネ率
最大 **70%**



●冷熱衝撃装置 TSA シリーズ

冷凍回路の効率化と、エコ運転機能の予冷・予熱開始時間設定を自動化することにより、消費電力を大幅に低減しました。

省エネ率
最大 **50%**



●恒温 (恒湿) 室 ビルドインチャンバー E シリーズ

DCインバータ冷凍機による周波数制御と電子膨張弁によるパルス制御の組合せにより、消費電力を大幅に低減しました。

省エネ率
最大 **60%**



※ 省エネ率は、当社指定運転パターンにおける計測。従来比。

※ 各製品の型式ごとの消費電力および従来比省エネ率については当社ホームページをご覧ください。

環境に配慮した工程

事業活動における環境配慮の取り組み

幅広い範囲で環境負荷低減に向けた改善を進めています。

サービスでの取り組み

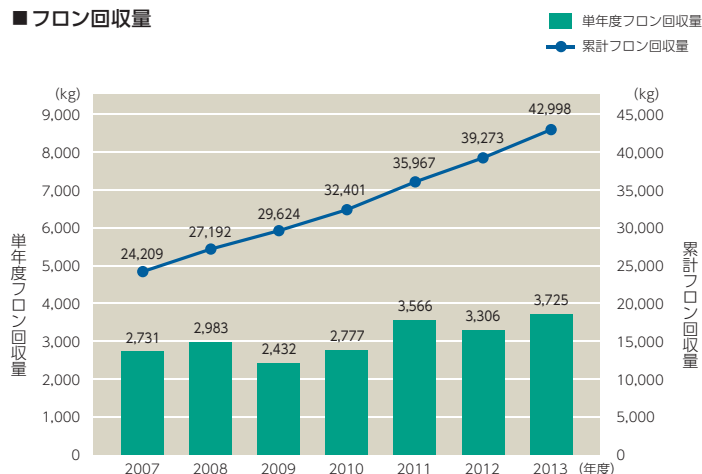
●製品回収

環境大臣より広域認定制度の認定を受け、「製品リサイクルサービス」を開始しました。このサービスは、お客さま先で使用済みとなった当社の環境試験器について、お客さまと「産業廃棄物処理委託契約」を締結し、有償にて製品を回収し、再資源化するものです。これにより、お客さまの廃棄手続きにかかる負担の軽減を図るとともに、廃棄物を適正にリサイクル処理します。2013年度は使用済み製品を132台回収しました。

●フロン回収

1995年度から修理・廃棄時のフロン回収を行っています。「フロン回収・破壊法」に基づく第一種フロン類回収業者登録を全国の自治体に行っています。回収した冷媒フロンは、フロン類破壊処理業者に高温プラズマ破壊等の処理を行い無害化します。これらの回収量は、約43t(2014年3月現在累計)にも及びます。

■フロン回収量



物流での取り組み

●資材調達時の取り組み

取引先さまと共同して資材・部品納入に伴う梱包材、緩衝材を削減するため、通い箱化を進めています。また、緩衝材などは、社内で再使用する取り組みにより、廃プラスチックの量を削減することができました。

エスベックでは、事業活動のすべてのプロセスにおいて、環境に配慮しています。各拠点・部門で自分たちにできることを主体的に考え、環境負荷低減に向けた取り組みを推進しています。

●製品輸送時の取り組み

地球温暖化を防ぐためにモーダルシフト(鉄道輸送の活用)を始めています。大阪を起点に、北海道、東北、九州、東京といった長距離輸送において、トラック輸送から貨物輸送への切り替えを行っています。関係各社のご協力のもと2013年度の1年間で約33t相当のCO₂削減効果を得ることができました。

事業所での取り組み

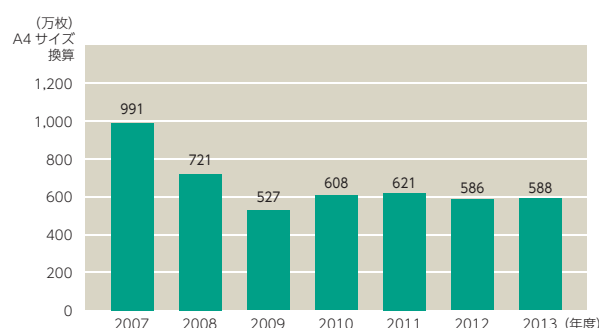
●ゼロエミッションの達成

各事業所において、ゼロエミッション(リサイクル率99%以上)達成を目指しており、2013年度に全事業所で達成しました。今後もゼロエミッションの状態を維持していきます。

●事務用紙の削減

大切な森林資源を守るために、事業所における紙の削減に取り組んでいます。これまで、製品の取扱説明書を電子化(CD・DVD)し、大幅に紙を削減していますが、2013年度はカスタム製品の標準化を進め、図面用紙の削減に取り組みました。その結果、売上増加の影響があったものの、2013年度は前年同等の588万枚となりました。また、事務用紙はすべて森林循環紙に切り替えており、今後は600万枚以下の水準を維持していきます。

■事務用紙購入量



●社有車のガソリン削減

社有車の使用に伴うCO₂の排出量は全体の約1割を占めています。公共交通機関の利用、低燃費車への切り替え、エコ運転の推進により、ガソリン使用量は、312kℓと昨年から削減することができました。

社会からの評価

環境への取り組みに対する評価

当社の取り組みに対して、
多方面からご評価をいただきました。

eco検定アワード2013「エコユニット部門大賞」受賞

東京商工会議所が主催するeco検定アワード2013において「エコユニット部門 大賞」を受賞しました。ゴーヤを用いた「みどりのカーテン」の普及に向けた啓発活動や、事業所内の森を実習地とした森づくりの推進役育成のための取り組み、また、当社製品使用時の消費電力低減に向けた活動など、全社をあげた取り組みが高く評価され、今回の受賞となりました。

※eco検定アワードは、他の模範となる環境活動を実践したエコピープル（eco検定合格者）やエコユニット（エコピープル2名以上の団体）を表彰し社会に周知することによって、個人や企業が積極的に環境に関する知識を身に付け、実際に行動を起こす一助となることを目的としています。



eco検定アワード 授賞式

環境経営度調査

日本経済新聞社主催の「2013年度環境経営度調査」で、77位に評価されました。この調査は、企業の環境対策を総合的に評価することを目的に、各企業のアンケート結果をもとに「環境経営度スコア」を作成し、日本経済新聞がランキング形式で紙面発表しているものです。2013年度は、前年に比べ「環境経営推進体制」と「温暖化対策」の項目で評価ポイントを上げましたが、「資源循環」と「製品対策」の項目で評価ポイントを下げました。総合ポイントでは前年同等となったものの、順位では5位下がる結果となりました。

■環境経営度調査実績

年度	ランク
2013年度	77位
2012年度	72位
2011年度	65位
2010年度	63位
2009年度	70位

平成25年度福知山市市民憲章推進者賞 (ツインクル賞)受賞

2013年11月、福知山市市民憲章推進協議会より「毛原の森 森林保全プロジェクト」として当社とパナソニックフोटライティング様、毛原地区自治会様との合同で、「福知山市市民憲章推進者賞(ツインクル賞)」を受賞しました。この賞は、福知山市市民憲章の理念に基づく「幸せを生きる」まちづくりに貢献した者に贈られる賞です。「毛原の森 森林保全プロジェクト」は、農林水産省の「棚田百選」にも選ばれた福知山市大江町毛原の自然豊かな美しい里山を保護・保全する活動で、2007年から当社社員が定期的に森林・雑木の手入れや草刈り、遊歩道の整備などを続けています。

日本ビオトープ協会より表彰状を拝受

特定非営利活動法人日本ビオトープ協会よりエスペックミックが表彰状を拝受しました。これは、協会設立20周年を機に実施されたもので、エスペックミックが長年にわたり人間と自然が共生する社会の推進と自然環境保全に尽力し、協会の発展に寄与したことが評価されました。



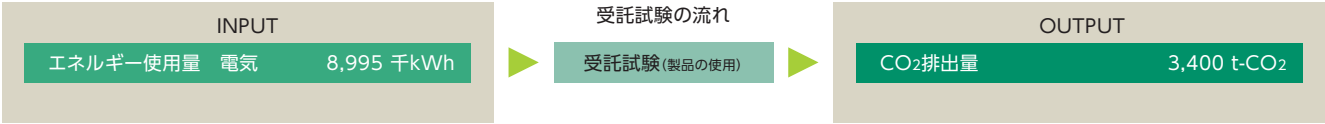
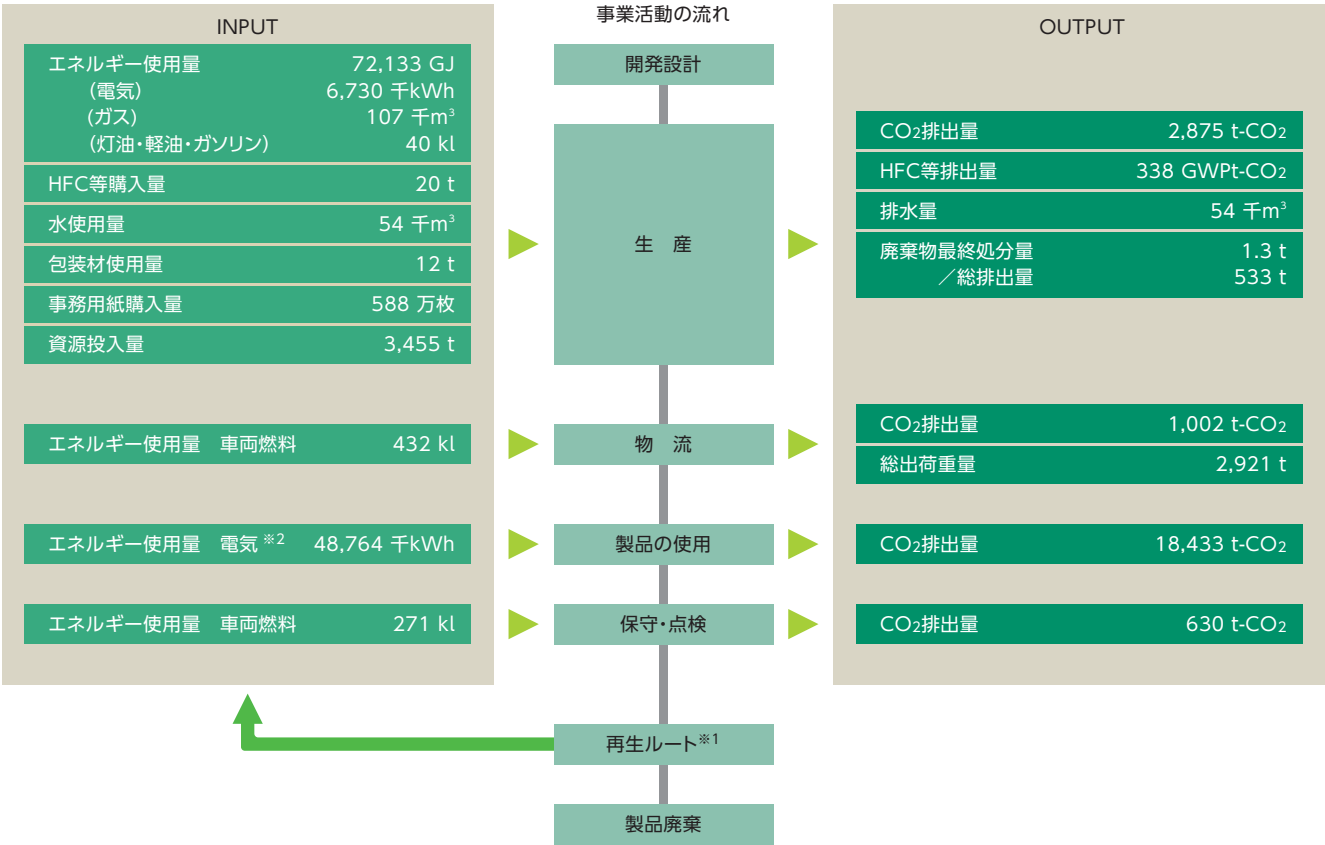
エスペックミックが施工したビオトープ

●最近の受賞歴

- 2013年 3月 モデルフォレスト運動推進表彰
「京都モデルフォレスト協会理事長賞」受賞
- 2013年 1月 第33回優秀省エネルギー機器「日本機械工業連合会会長賞」受賞(恒温恒湿器プラチナス)シリーズ
- 2012年 2月 eco検定アワード2011「エコピープル大賞」受賞
- 2012年 1月 eco japan cup 2011「カルチャー部門
エコミュージック審査員応援賞」受賞
- 2011年 12月 第8回「エコプロダクツ大賞」
審査委員長特別賞(奨励賞)

事業活動の マテリアルバランス

■ 2013年度実績



※1 エスペック製品リサイクルサービス
※2 製品の使用に伴うエネルギーの使用は2013年度主力製品出荷実績からの試算

■ 算出根拠

換算係数	熱量換算	CO ₂ 換算
①電力	千kWh=9.82 GJ	千kWh=0.378 t-CO ₂
②長田野ガス	千m³=45.0 GJ	千m³=2.29 t-CO ₂
③都市ガス	千m³=41.1 GJ	千m³=2.11 t-CO ₂
④LPガス	千m³=100 GJ	千m³=5.98 t-CO ₂
⑤灯油	1kl=36.7 GJ	1kl=2.49 t-CO ₂
⑥軽油	1kl=38.2 GJ	1kl=2.62 t-CO ₂
⑦ガソリン	1kl=34.6 GJ	1kl=2.32 t-CO ₂

「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(環境省)を参考に設定

実績データ

■ 2013年度 サイト別データ

	本 社	福知山工場	宇都宮 テクノ コンプレックス	神戸R&D センター	大阪オフィス	全国の営業所・ 事業所計 17事業所合計	豊田試験所	刈谷試験所	ISO14001 一括取得対象 22事業所
地域区分	商業地域	工業専用地域	工業専用地域	準工業地域	準工業地域	—	—	—	—
主な業務・生産物	環境試験装置・ 電子デバイス装置 の販売、開発、設計 ならびに資材・ 部品の購買業務	環境試験装置・ 電子デバイス装置 の製造	環境試験装置・電子 デバイス装置等の販売、 メンテナンス(点検・保守) 受託試験 製品レンタル	技術開発拠点 および受託試験	環境試験装置・ 電子デバイス装置 等の販売、 メンテナンス (点検・保守)	環境試験装置・ 電子デバイス装置 等の販売、 メンテナンス (点検・保守)	受託試験 製品レンタル	受託試験 製品レンタル	—
排出物の発生量(総量)※1	12.2 t	412.5 t	15.0 t	9.3 t	14.3 t	65.5 t	2.9 t	1.5 t	533.1 t
産業廃棄物量	12.2 t	84.5 t	4.7 t	5.8 t	7.5 t	53.9 t	0.7 t	—	169.2 t
事業系一般廃棄物量	12.1 t	68.4 t	6.3 t	0.8 t	0.7 t	4.5 t	0.6 t	0.1 t	93.5 t
有価物	—	259.6 t	3.9 t	2.7 t	6.1 t	12.4 t	1.6 t	1.4 t	287.8 t
埋立物	0.1 t	1.0 t	0.0 t	0.0 t	0.1 t	0.0 t	—	—	1.3 t
電力	442 千kWh	4,399 千kWh	2,822 千kWh	2,628 千kWh	127 千kWh	222 千kWh	3,283 千kWh	1,803 千kWh	15,725 千kWh
事務用紙購入量	251万枚※2	212 万枚	9 万枚	18 万枚	23 万枚	172 万枚	4 万枚	—	588 万枚
ガス使用量	541 m ³	61,592 m ³	—	44,222 m ³	20 m ³	1,337 m ³	—	12 m ³	107,724 m ³
社有車保有台数	7 台	6 台	14 台	3 台	27 台	137 台	3 台	—	197 台
うち、ハイブリッドカー	1 台	3 台	3 台	1 台	4 台	18 台	1 台	—	31 台
燃料使用量(ガソリン)	14 kl	6 kl	16 kl	3 kl	35 kl	236 kl	2 kl	—	312 kl
走行距離	191,756km	97,463 km	247,412 km	47,109 km	524,705 km	2,720,745 km	31,611 km	—	3,994,582 km
順法への対応	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合
地域からのクレームなど	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

※1 お客さま先での作業時発生分を含む
※2 寝屋川ビジネスセンター分を含む

■ 2013年度 全社PRTR実績

(単位:t)

第1種指定化学物質の名称		キシレン	トルエン	ヒドラジン	ノルマルヘキサン
第1種指定化学物質の番号		80	300	333	392
年間取扱量		0.004	0.017	0.023	0.001
排出量	製品への含有分(自主測定項目)	—	—	—	0.001
	リサイクル分(売却分)(自主測定項目)	—	—	—	—
	イ) 大気への年間排出量	0.003	0.017	—	—
	ロ) 公共用水域への年間排出量	—	—	—	—
	ハ) 当該事業所における土壌への排出 二) 以外	—	—	—	—
	二) 当該事業所における埋立処分	—	—	—	—
	移動量	イ) 下水道への移動	—	—	0.023
	ロ) 当該事業所の外への移動 イ) 以外	0.001未満	—	—	—

※ 第1種指定化学物質のうち、年間取扱量が1kg以上のものを記載しています

■ 環境保全コスト

(単位: 千円)

分 類		主な取り組みの内容	2012年度		2013年度	
			投資額	費用額	投資額	費用額
(1)	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）		43,146	51,650	9,259	44,297
内訳	①公害防止コスト		—	118	1,646	370
	②地球環境保全コスト		43,146	36,456	7,614	31,332
	③資源循環コスト		—	15,075	—	12,595
(2)	生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト（上・下流コスト）		—	—	—	—
(3)	管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト）	ISO14001運用経費	—	63,354	—	64,349
(4)	研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト）	環境配慮型製品・技術の開発	—	339,231	—	247,856
(5)	社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト）		—	2,391	—	1,899
(6)	環境損傷に対応するコスト（環境損傷コスト）		—	—	—	—
合計			43,146	456,625	9,259	358,400

(単位: 千円)

項 目	2012年度	2013年度
当該期間の投資額の総額	654,546	706,135
当該期間の研究開発費の総額	1,116,381	924,306

■ 環境保全対策に伴う経済効果

(単位: 千円)

効果の内容		金 額
収益	リサイクルにより得られた収入額	8,952
費用削減	省エネルギーによる費用削減	5,462

■ 環境保全効果

効果の内容	環境保全効果を表す指標		
	指標の分類	指標の値	
(1) 事業活動に投入する資源に関する効果	電力の使用	2012年度	2013年度
	電力消費量(千kWh)	6,241	5,877
	削減量(対前年比)(千kWh)	431.2	364.2
	原単位(千kWh/億円)	26.8	24.7
	原単位での削減率(対前年比)(%)	1.2	7.9
(2) 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	廃棄物の排出	2012年度	2012年度
	発生総量(t)	2.3	1.3
	削減量(対前年比)(t)	-0.5	1.0
	原単位(kg/億円)	9.9	5.5
	原単位での削減率(対前年比)(%)	-37.1	44.7
	売上高(億円)	232.7	237.9

※1 ー付きの値は増加分

※2 電力は、生産部門+事務所電力の合計（研究開発と受託試験分は除く）

※3 廃棄物は、事業所内で発生した埋立廃棄物の合計